

西東京市多文化共生推進指針策定に関するヒアリング調査結果

調査の概要		主な調査結果	
■調査対象（合計 30 人） A. 子ども日本語教室の生徒（中学部）…3 人 B. 子ども日本語教室の修了生（高校生）…3 人 C. 子ども日本語教室の修了生（大学生）…3 人 D. 子ども日本語教室のスタッフ…小学部 3 人、中学部 4 人 E. 日本語適応指導員…小学生の指導員 4 人、中学生の指導員 3 人 F. 市内小学校及び中学校の各副校長…7 人 ※小学校 4 校（東伏見小学校、中原小学校、田無小学校、向台小学校） ※中学校 3 校（ひばりが丘中学校、田無第三中学校、保谷中学校） ■実施方法 対象者に予め質問項目を送り、対象者ごとに対面でヒアリングを実施。 ■実施期間 令和 6 年 8 月 19 日（月）～10 月 25 日（金） ■調査項目 ① 日本語教育の推進について ② 子育て・行政サービスの提供について ③ 行政・生活情報の多言語化について		■① 日本語教育の推進について <u>1. 学習</u> 実 態：日本語が分からないため、学校の授業が分からない ニ ー ズ：学校の授業を理解するために、日本語を教えて欲しい 課 題：安定した学習機会の提供 <u>2. 交流</u> 実 態：友だちをつくるきっかけが少なく、友だちをつくることに障壁を感じる ニ ー ズ：同世代や同コミュニティに所属している人と交流する機会が欲しい 課 題：同世代等の交流機会の創出 <u>3. 文化理解</u> 実 態：日本の文化やルールが分からず、学校・生活に馴染めない ニ ー ズ：日本の文化やルールを教えて欲しい 課 題：日本の文化に係る理解啓発 <u>4. 情報発信及び情報共有</u> 実 態：行政サービスや補助金、高校受験制度等について、十分理解されておらず、支援を受けられない外国人がいる ニ ー ズ：外国人が必要とする制度等について、情報発信及び情報共有を強化して欲しい 課 題：関係機関同士の情報発信及び情報共有の不足 ■② 子育て・行政サービスの提供について <u>サービスの利用促進について</u> 実 態：外国人を支援するサービスについて、知らない人もいる ニ ー ズ：外国人を支援するサービスについて、情報が行き届くよう広く周知して欲しい 課 題：外国人を支援するサービスの周知強化 ■③ 行政・生活情報の多言語化について <u>やさしい日本語の活用を含む多言語化</u> 実 態：日常生活で関わる物事について多言語化が不足している ニ ー ズ：外国人でもわかるように行政・生活情報を多言語化して欲しい 課 題：やさしい日本語の普及・広報物等の多言語化	
ヒアリング結果一覧			
■① 日本語教育の推進について <u>学習について</u> ・日本人と会話ができる機会があると良いと思う。(A) ・買い物等の日常生活で苦労した。(A) ・自宅から子ども日本語教室まで距離があり、通い続けることが大変。(A) ・塾との掛け持ち、学校の授業の後だと疲れる。(B) ・日本語が理解できず、学校の授業やテストを理解できなかった。(B・C) ・学校で日本語を教えてくれる人がいると良いと思う。(C) ・個別に相談があれば対応する。(F) <u>交流について</u> ・同年代の友達と話す機会が欲しい。(A) ・子どもだけで集まることができるコミュニティがあると良いと思う。(A) ・来日して間もない頃は、日本語を話すことができないため、友達ができなかった。(B) ・学校の同級生と話すことに壁を感じていた。きっかけがあると良いと思う。(C) ・心理的なサポートが欲しい。悩んでいることを聞いて欲しい。(C) ・日本語教室は子どもたちが母国語で心を開いて話すことができる居場所となっており、自宅から遠くても日本語教室に通うモチベーションになっている。(D) ・児童館での活動を楽しみにしている児童・生徒もいるが、高校を卒業して児童館の利用ができなくなるため、高校を卒業しても活動できる場所があると良いと思う。(E) <u>文化理解について</u> ・校則等、日本人が当たり前に分かっていることが分からない。(C) ・日本人と外国人がお互いに文化の違いを理解できるようになると良いと思う。(C) ・子ども同士のトラブルが起こった時の対応など、外国人の保護者に日本の見えないルールを教える場が必要だと思う。(D) ・子どもによっては、受験すれば必ず高校に入学できると思っていて、日本の受験制度を理解してもらうのに苦労している。(D) ・信仰している宗教によって、学校のイベントに参加できないことがある。(E) ・体育の授業の際、着替えさせてもらうのを待っている児童・生徒がいた。(E)		・学校にお弁当を持参することを知らず、持参できない家庭があった。(E) ・外国人の子どもを学校で受け入れる際は、宗教上で配慮が必要なこと（食事、お祈りの時間、服装など）について事前に確認している。(F) <u>情報発信及び情報共有について</u> ・私立高校の授業料の無償化や補助金等の支援制度が外国人にもわかりやすく伝わるようになると良いと思う。(D) ・外国人に係る制度等について、子ども日本語教室のスタッフの中でも知識に差があるため、全体に共有できたら良いと思う。(D) ・令和 6 年度から高校受験の申込手続きのオンライン化が進み、手続きのサポートが必要となっている。サポートには Wi-Fi 環境が必要。(D) ・児童・生徒の状況について、細かな状況を共有し、適切な指導ができるように連携が必要だと思う。(E) ・保護者が学童の制度を知らなかったため、利用申請を行うことができず、小学校低学年の子どもが放課後に一人で過ごすこともあった。(E) ・外国人自身の在留資格で何ができるのかを知らず、支援者も在留資格についての知識が浅いこともある。(E) ■② 子育て・行政サービスの提供について <u>サービスの利用促進について</u> ・日本語教室の中でもデイジー教科書を活用できるよう Wi-fi 環境が整備されると良いと思う。(D) ・デイジー教科書について、積極的には活用していない。(F) ・外国語通訳ボランティア事業を知らない。(F) ・多文化キッズサロンについて、人事異動があるため年度初めに再周知をしてもらえると良いと思う。(F) ・多文化共生センターについては、外国人の対応で困った際に調べて発見するため、知らない先生も多い。校長・副校長会議等で周知すると良いと思う。(F) ■③ 行政・生活情報の多言語化について <u>やさしい日本語の活用を含む多言語化について</u> ・ふりがながもっと増えると良いと思う。(B) ・まちなかで英語以外の言語表記が増えると良いと思う。(B) ・季節の挨拶文等のかしこまった日本語は、日本人にも伝わりづらいこともあると思う。(F) ・やさしい日本語について、学校の面談では意識して使っている。(F)	